標準修業年限以内に修了に至らない要因

2024 年度末現在、修士課程は、概ね 8～9 割の学生が修業年限以内で修了している一方、博士後期課程等（博士課程（4 年制・5 年一貫制）含む）の標準修業年限内の修了率は低い傾向にある。その原因は複合的であり、明示的・定量的な特定は困難であるが、各研究科・専攻の分析に基づくと、以下のような状況が見られる。なお、この時期の修了率については、コロナ禍が研究の進捗に影響を及ぼした可能性も考慮する必要がある。

※以下の記載は各分野から聴取した事例を分類・整理したものであり、研究科・全体に共通するものではない。また、主に博士後期課程に関する要因だが、修士課程や専門職学位課程にも該当する部分がある。

1. 研究活動に関わる要因

＜主に文系分野に見られるもの＞

- 高度な語学能力・文献読解能力の習得のための訓練の長期化
- 文献収集・調査等のための現地滞在の長期化
- 対人研究・フィールドワーク等におけるデータ取得プロセス（対象者の募集、事前の許可の取得、対象者との信頼関係の構築、観察された事象によるテーマ修正等）の不確実性

＜主に理系分野に見られるもの＞

- 大型装置・外部施設・共用設備等の利用機会の限定による影響
- 自然現象・動植物を対象とする研究や野外活動を必要とする研究における実験・観測の不確実性（自然現象が起こるタイミング、気象条件、試料・実験装置の作製・培養の進行の不確実さ等）による影響

＜文理共通して見られるもの＞

- 膨大な先行研究の消化や研究テーマ・アプローチ方法の模索に伴う研究の本格化の遅れ
- より高度な研究成果の追求に伴う長期化
- 査読付きの専門学術誌への論文掲載が求められる場合、掲載に伴うプロセスの長さ
- 海外留学・海外調査・国際会議等にかかる時間・労力や現地の社会情勢・政治情勢・ステークホルダーの個別事情による影響

2. 研究活動以外の要因

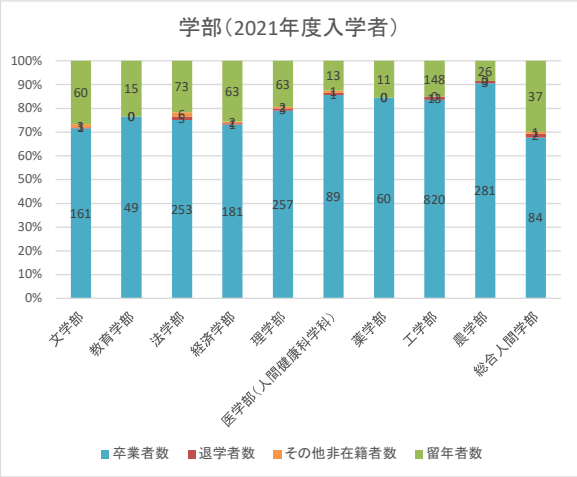
- 就職活動による影響
- 社会人学生の業務と研究・学修とのエフォートバランスによる影響（業務による研究進捗の遅れ）
- 親の介護、家族のケア、家事、育児、経済的事情等による影響
- 身体的・精神的健康状態の問題による影響

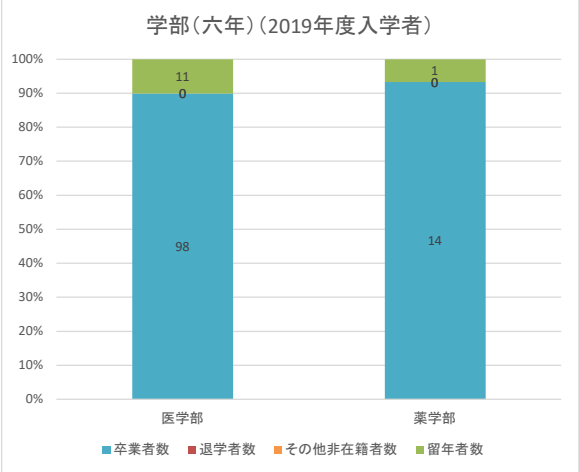
以上

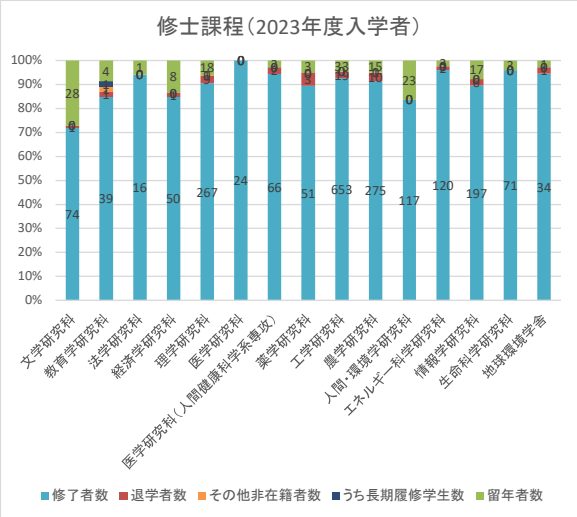
参考

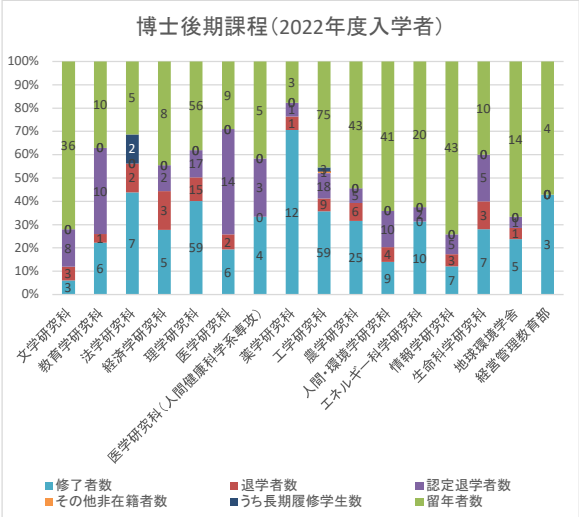
標準修業年限内学位授与率（卒業・修了、退学、留年等）

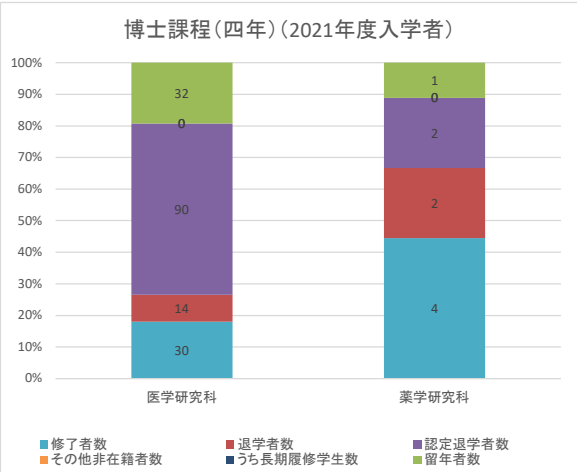
※修業年限経過時点の学籍状態で算出。（2021年4月1日学部入学の場合は2025年3月31日）
※博士課程において、研究指導認定を受けて退学した学生を退学者と分けて「認定退学者数」に計上。

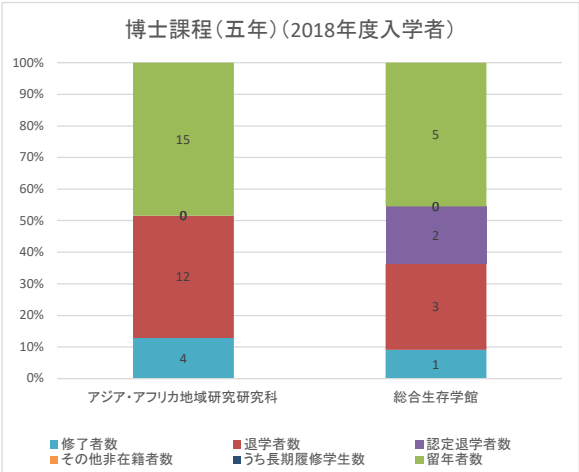


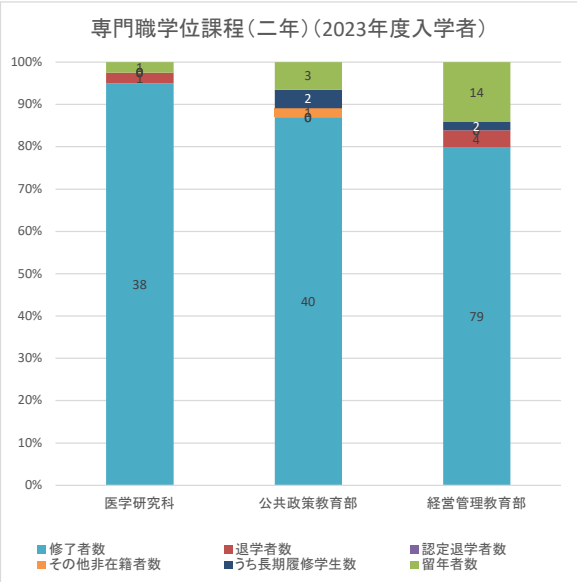


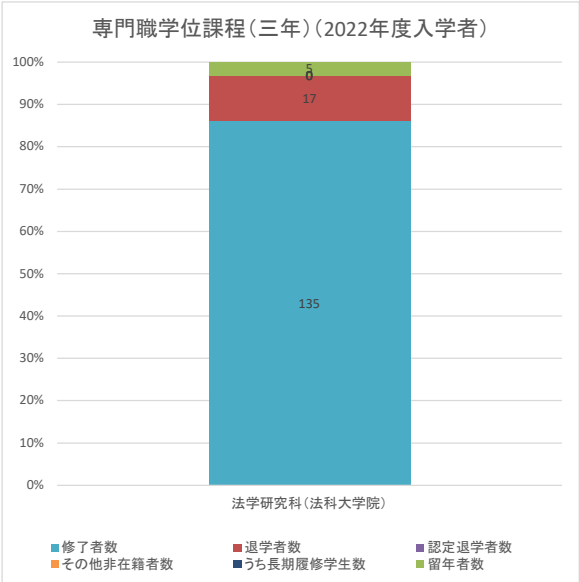









専門職学位課程（二年）（2023年度入学者）
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
1
0
38
3
2
1
0
40
14
2
4
79
医学研究科
公共政策教育部
経営管理教育部
修了者数
退学者数
認定退学者数
その他非在籍者数
うち長期履修学生数
留年者数


専門職学位課程（三年）（2022年度入学者）
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
5
0
17
135
法学研究科（法科大学院）
修了者数
退学者数
認定退学者数
その他非在籍者数
うち長期履修学生数
留年者数